

6-5 ハルゼミ

6-5-1 調査概要

現況調査時に計画地域内及び周辺において生息が確認されたハルゼミについて、現在の生息状況を調査した。

6-5-2 調査年月日及び調査内容

調査は表 6-5-1 に示すとおり、成虫の発生時期に生息確認を 2 回行った。

表 6-5-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 22 年 5 月 14 日	成虫の生息確認調査
平成 22 年 5 月 31 日	

注) 成虫確認調査は、天候不良(気温の上昇不足等)により、各所で例年に比べて発生の遅れや不良が見られたため 1 回を追加。

6-5-3 調査範囲及び調査ルート

調査は、現況調査時に生息が確認された場所周辺を中心に、図 6-5-1 に示すルートで実施した。

6-5-4 調査方法

事業実施区域内及び周辺のアカマツ林等を任意に踏査し、鳴き声や目視、補虫網を用いた捕獲による確認を行った。また、同種の鳴声を録音したテープを再生し、共鳴させる方法も実施した。

6-5-5 調査結果

現地調査の結果、図 6-5-1 に示すとおり、事業実施区域外の南側で 8 (5 月 14 日) ~ 5 (5 月 31 日) 個体、東側で 1 個体 (5 月 31 日) の生息を確認した。

ここで、本調査では前述のゲンジボタルを含め、天候不良(気温の上昇不足等)による昆虫類全般の発生の遅れや不良が各所で聞かれたことから、1 回の調査を追加して確認を行なっている。しかしながら、例年に比べると確認数はやや少ないものであり、当該地も同様に発生不良であった、あるいは発生の遅れから最盛期を逸した可能性が推測される。

平成 10 年以降の事後調査におけるハルゼミの確認状況は、表 6-5-2 に示すとおりである。

調査状況は資料編に示す。

表 6-5-2 ハルゼミの過去の確認状況

種名	H22	H19	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10
ハルゼミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

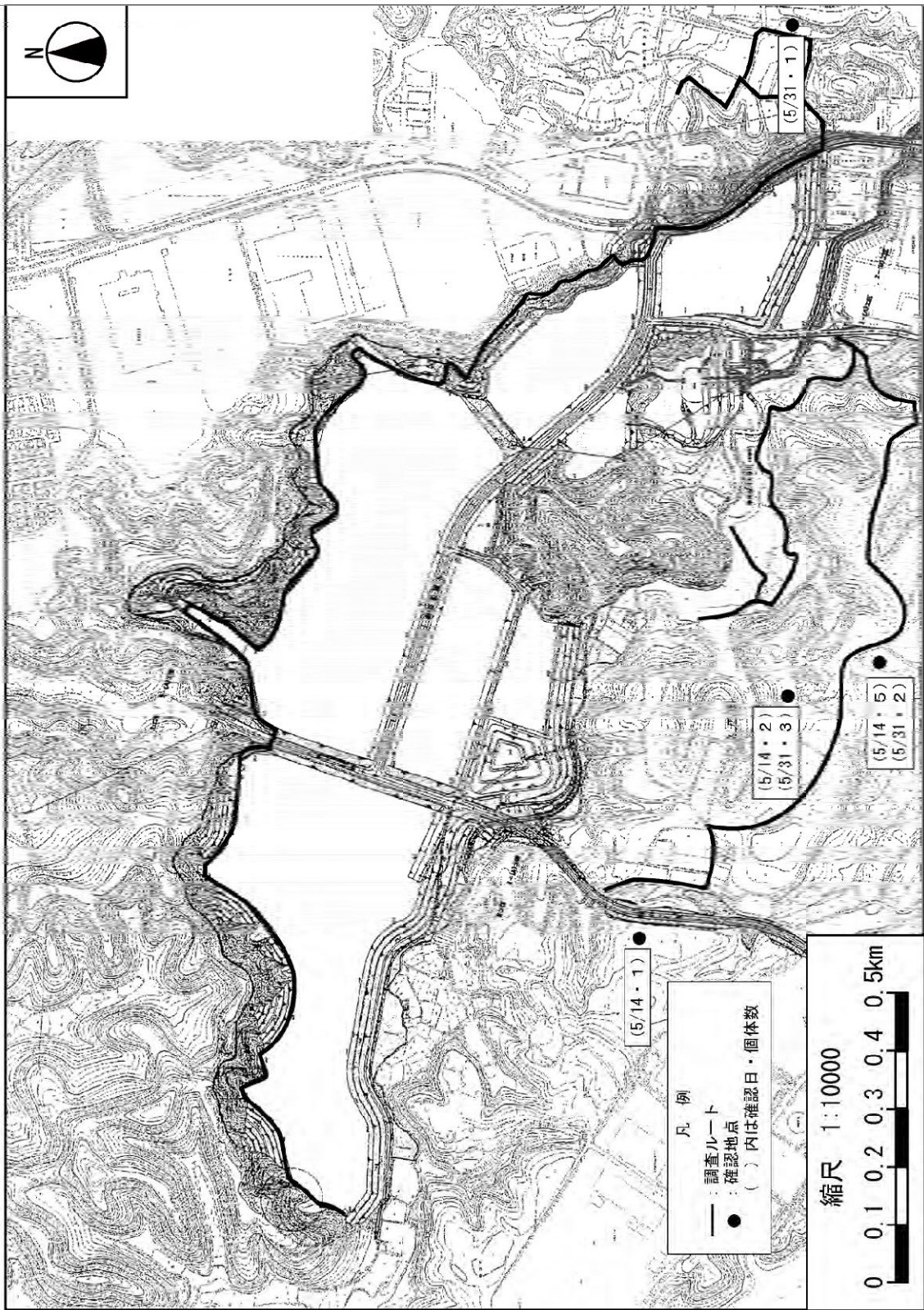


図 6-5-1 ハルゼミ調査ルート及び確認地点

6-6 トゲアリ

6-6-1 調査概要

現況調査時に生息が確認されたトゲアリについて、現在の生息状況を調査した。

6-6-2 調査年月日及び調査内容

調査は、表 6-6-1 に示すとおり、5月に1回を実施した。

表 6-6-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 22 年 5 月 14 日	生息確認調査

6-6-3 調査範囲

調査は、図 6-6-1 に示す過年度に生息が確認された地点及び周辺とした。ただし、この範囲外であっても、他の項目の調査等で生息が確認された場合は、適宜記録を行った。

6-6-4 調査方法

調査範囲を任意に踏査し、目視や捕獲による確認を行った。

6-6-5 調査結果

調査の結果、平成 19 年度に生息が確認された事業実施区域南側の大谷川沿い 1 箇所（発生木アカマツ）のほか、残存緑地南の山林内 2 箇所（発生木クヌギ、コナラ）でコロニーが確認された。しかし、平成 19 年度に生息が確認された地点のうち、事業実施区域東側の残存緑地内 2 箇所、事業実施区域北側 1 箇所での確認については、今回生息が確認されなかった。

なお、確認されたコロニーについて、確認時（5月14日）は数個体の活動が確認されるのみであったが、その他の調査時に再確認を行なうと、多数群れているのが確認された。このことから、前出ゲンジボタルやハルゼミ同様、天候不良が本種の活動等に影響を及ぼしたものと考えられる。

平成 10 年以降の事後調査におけるトゲアリの確認状況は、表 6-6-2 に示すとおりである。

調査状況及び確認された個体等は資料編に示す。

表 6-6-2 トゲアリの過去の確認状況

種名	H22	H19	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10
トゲアリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

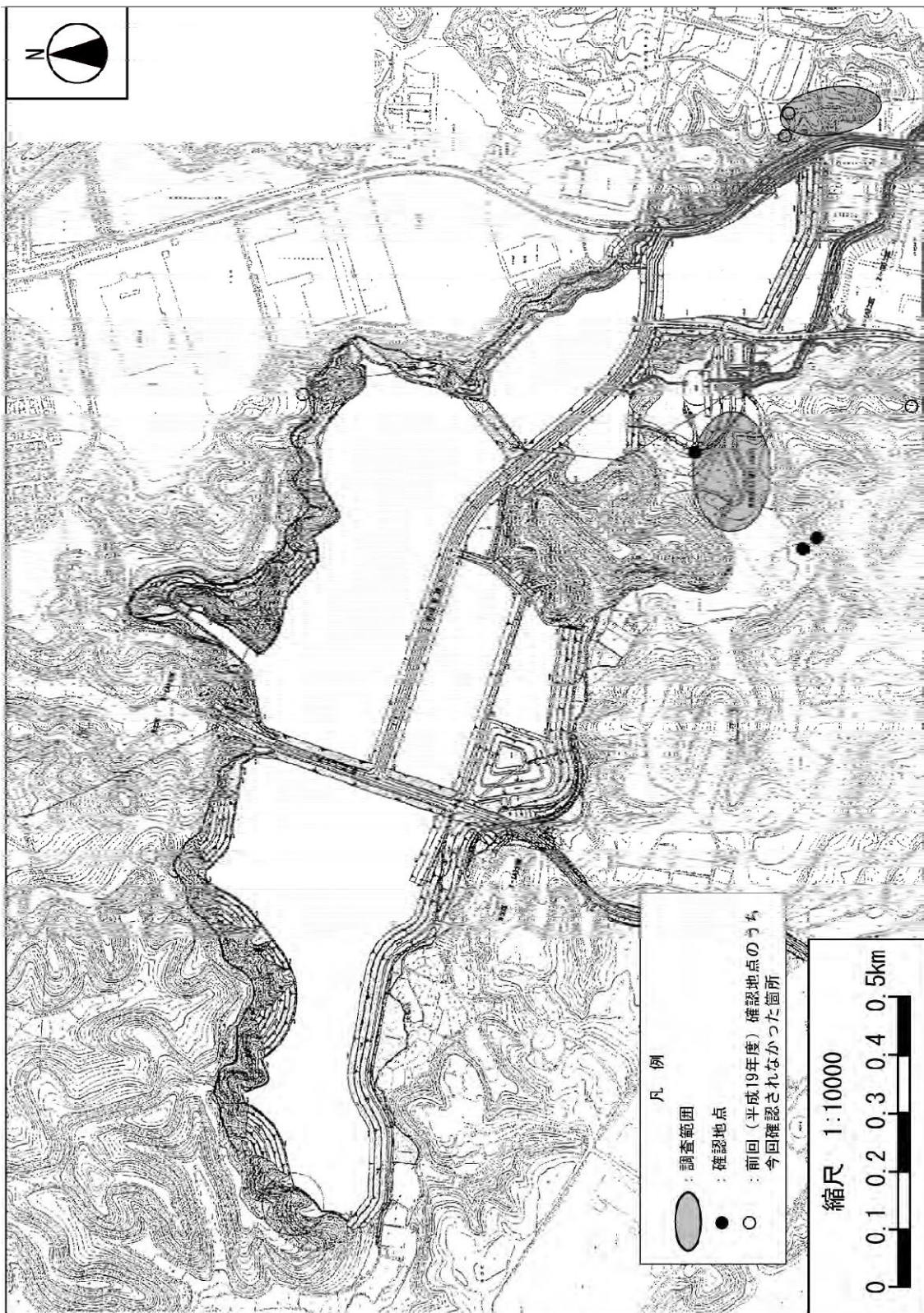


図 6-6-1 トゲアリ調査範囲及び確認地点

6-7 アミメカゲロウ

6-7-1 調査概要

現況調査時に生息が確認されたアミメカゲロウについて、現在の生息状況を調査した。

6-7-2 調査年月日及び調査内容

調査は表 6-7-1 に示すとおり、5 月に 2 回を実施した。

表 6-7-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 22 年 5 月 14 日	成虫の生息確認調査
平成 22 年 5 月 31 日	

6-7-3 調査範囲

現況調査時の確認地点はすでに改変されていることから、調査はその付近となる残存緑地とその周辺とした。主な調査範囲は図 6-7-1 に示すとおりである。なお、この範囲外であっても、他の項目の調査時に生息が確認された場合は、適宜記録を行った。

6-7-4 調査方法

調査範囲を任意に踏査し、目視や補虫網を用いた捕獲による確認を行った。

6-7-5 調査結果

調査の結果、図 6-7-1 に示すとおり平成 19 年度に生息が確認された事業実施区域南側の山林内 2 箇所のうち、1 箇所でアオキやアラカシ、ヤマモモ等の照葉樹のスウィーピングにより 1 個体が捕獲（確認）された。なお、平成 19 年度に生息が確認された地点のうち、1 箇所では今回生息が確認されなかったが、本種は過年度の調査結果から当該地における生息数は極めて少ないものと推定される。さらに、その他の昆虫類同様、天候不良が本種の活動に影響を及ぼし、発見が困難になった可能性がある」と推測される。

平成 10 年以降の事後調査におけるアミメカゲロウの確認状況は、表 6-7-2 に示すとおりである。

調査状況及び確認された個体等は資料編に示す。

表 6-7-2 アミメカゲロウの過去の確認状況

種名	H22	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10
アミメカゲロウ	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

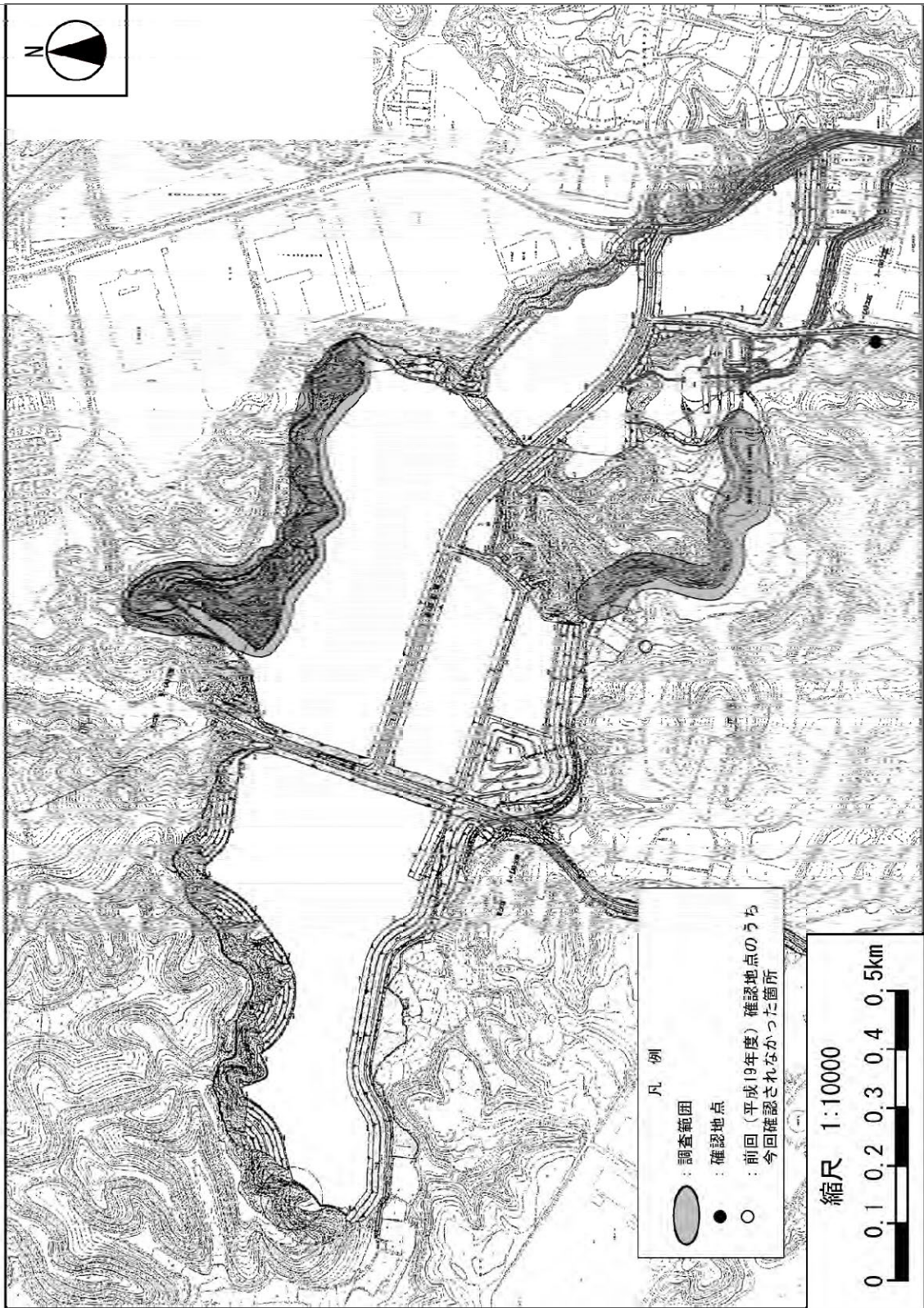


図 6-7-1 アミメカゲロウ調査範囲及び確認地点

6-8 アオマツムシ

6-8-1 調査概要

現況調査時に計画地内及び周辺で生息が確認されたアオマツムシについて、現在の生息状況を調査した。

6-8-2 調査年月日及び調査内容

調査は表 6-8-1 に示すとおり 9 月に 1 回を実施した。

表 6-8-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 22 年 9 月 22 日	夜間における成虫の生息確認調査

6-8-3 調査ルート

調査は過年度に準じることとし、計画地内及び周辺の樹林部や植栽木のある道路沿いを中心に図 6-8-1 に示すルートで実施した。

6-8-4 調査方法

調査は調査ルートを任意に踏査し、鳴声や捕虫網を用いた捕獲による確認を行った。

6-8-5 調査結果

調査の結果、図 6-8-2 に示すとおり、事業実施区域周辺の回復緑地や残存緑地、既存工場周辺の樹林帯や街路樹等、昨年生息を確認した地域を中心に多数の生息が確認された。

平成 10 年以降の事後調査におけるアオマツムシの確認状況は、表 6-8-2 に示すとおりである。

調査状況及び確認された個体等は資料編に示す。

表 6-8-2 アオマツムシの過去の確認状況

種名	H22	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10
アオマツムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

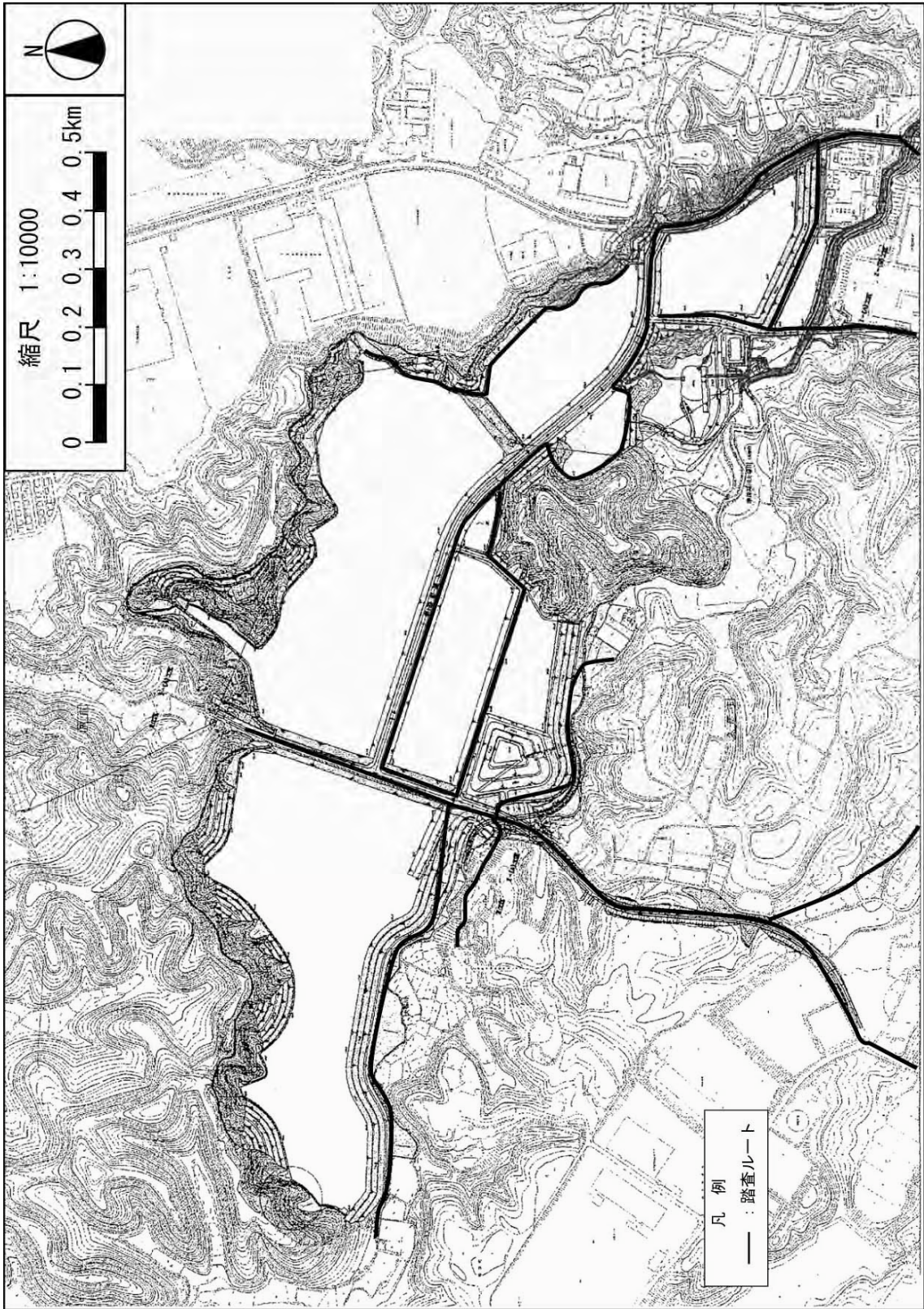


図 6-8-1 アオマツムシ調査ルート

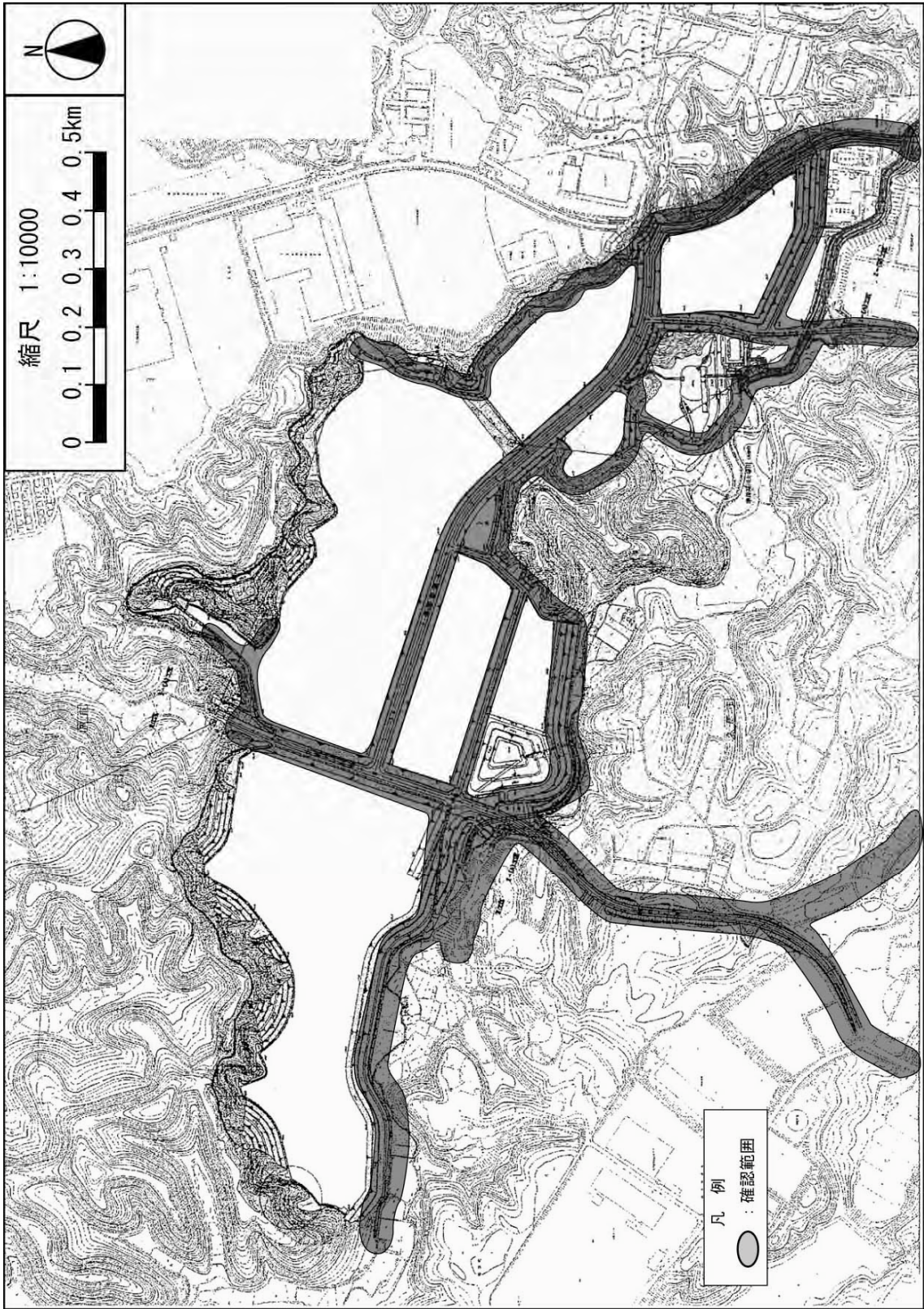


図 6-8-2 アオマツムシ確認地点